



## 環境大臣賞 グランプリ

らい  
来ハトメ工業株式会社

埼玉県

プレゼン動画は  
コチラ熱意と社内教育で積み上げた  
中小町工場の脱炭素への挑戦

「どうせ会社の電気代だし……」そんな空気が蔓延し、節約意識が皆無だった当社がエコアクション21認証を取得したのは2010年。その要求事項だからということで訳も分からぬまま始まった脱炭素への取組。見える化、機器更新、再エネ購入、シナリオ分析、そしてその間ずっと続けた従業員への啓発教育の甲斐あって2021年度のCO<sub>2</sub>排出量は9.50t-CO<sub>2</sub>。実に年間400t以上のCO<sub>2</sub>削減を達成できました。



▲ 工場内の照明をLED化(2011年)



▲ 従業員全員でSDGsキックオフミーティング(2017年)



▲ ガッツポーズで伝わったグランプリ受賞の想い

## 審査コメント

CO<sub>2</sub>排出量を数値化し、確実に削減していく取組は、これからのお手本となる脱炭素経営です。CO<sub>2</sub>の見える化、設備更新などのほか、従業員への啓発教育は、お金だけでは解決できない意識改革に踏み込んでおり、諦めない地道な取組に勇氣と希望をもらいました。素晴らしい取組が、企業の脱炭素モデルとなることを期待しています。

審査委員長 江守 正多

## 受賞者コメント

この度は環境大臣賞グランプリという大変名誉な賞を賜りありがとうございました。受賞後の反響の大きさと従業員の歡喜ぶりににはただただ驚くばかりです。省エネ、見える化、機器更新、グリーン電力に環境教育。こうして見ると単純な取組ばかりだと思えることでしょう。でも、こうしたそれらの取組を実行に移し、続けられたからこそCO<sub>2</sub>排出量97%削減という結果に繋がったのだと強く思います。「まずは始めてみることに粘り強く続けること。これこそ脱炭素の極意」。今回の受賞を通じて教えられた気がします。

さあ、次はいよいよ受賞者としての責任を果たす番。1分間プレゼンで皆様にお約束した「2035年カーボンニュートラルの達成」。この難題に全力で立ち向かう弊社にこれからも御注目いただければ幸いです。



## 環境大臣賞 金賞〈学生部門〉



# さいじょう 広島県立西条農業高等学校 コオロギ広め隊

広島県

プレゼン動画は  
コチラ



## 食物残渣を利用した昆虫食の普及と 宇宙での飼育を目指した取組

2050年には97億人になると予想される世界人口。食料需給も1.7倍になると言われているが、環境に負荷の大きい畜産だけでは食料生産が難しいのではないかと考え、少ない飼育面積、少ない餌、少ない水で飼育できる昆虫で動物性たんぱく質を摂取する方法を検討している。そこで、将来的には宇宙進出を想定して食物残渣をエサとしてコオロギを飼育し、昆虫食の開発と普及に取り組んでいる。



▲ コオロギを育てる衣装ケースを手にするメンバー



▲ コオロギパウダーがたっぷり入ったキーマカレー



▲ 会場を沸かせた自己紹介

### 審査コメント

審査委員会の中でも、昆虫食は目を引き、これからの食への可能性に期待感がありました。環境負荷の大きい畜産に代わるたんぱく源としてコオロギに着目し、宇宙飼育も視野に入れているところに学生らしい夢も感じました。現状、コオロギ食のイメージには賛否がありますが、これなら食べてもよいと思わせるような楽しいプレゼンでした。今後、ますます活動が盛り上がっていくことを期待しています。

審査委員長 江守 正多

### 受賞者コメント

この度は、環境大臣賞金賞をいただきありがとうございました。私たちの活動は、昆虫食の普及ということもあり、理解していただけるか不安もありました。私たちも正直なところ、はじめはかなり抵抗感があり、食べるとなるととてもハードルが高かったです。しかし、活動を続けるうちに、昆虫食を普及させることの重要性や地球環境の現状を理解することで、将来的に本当に必要な分野であると感じ、応募を決意しました。その結果、このように素晴らしい賞を受賞でき、活動を続けて良かったと感激しています。これからも脱炭素社会に貢献できる活動を継続していきたいと思えます。私たちにこのような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。



環境大臣賞 金賞 〈ジュニア・キッズ部門〉



大牟田市立明治小学校

福岡県

プレゼン動画は  
コチラ



つながれ ぼくらの思い!  
未来の大牟田のために、今できること!

SDGsの項目7、項目11の達成に向け、エネルギーや自然・環境への関心を深め、「省エネ・省資源」「自然・環境の保持・美化」を実践できる児童を育成するために、各学年の発達段階に応じて様々な取組を行っている。「緑のカーテンづくり」「ソーラーフッキング」「5校合同川プロジェクト」等、体験的な活動を通して、自分事としてエネルギー環境について課題をとらえ、問題を解決する子どもたちの姿が見られる。



▲ 堂面川でゴミ拾いする5年生



▲ 小学6年生が5年生に取組を紹介



▲ 手作り感あるプレゼンを披露した元気な2人組

審査コメント

学校全体でエネルギーや環境問題への意識が高く、小学1年生～6年生まで、学年に応じた環境教育がしっかりと根付いている点が高く評価されました。多種多様な体験学習と取組の継続性は、目を見張るものがあります。野菜栽培から発電の仕組みやエネルギーミックスを学ぶ発展的カリキュラムは他校の模範と言えます。

審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

この度は、ファイナリストに選んでいただいたうえ、金賞という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございました。本校では、毎年、全学年の児童が、発達段階に応じて脱炭素につながるエネルギー・環境教育の活動に取り組んでいます。派手ではありませんが、6年間の学習の積み重ねを評価していただいたのではないかと考えています。SDGsの取組の一環として、保護者や地域、他校との交流で学びを伝える活動も行なってきました。今後も、今回聞かせていただいた他団体の取組も参考に、校内・校外での学びのつながりを意識して、取り組んでまいります。



## 環境大臣賞 金賞〈企業・自治体部門〉



ひざき  
**日崎工業株式会社**

神奈川県

プレゼン動画は  
コチラ



# 2030年までにCO<sub>2</sub>排出ゼロを目指す 町工場の取組

2011年3月の東日本大震災による福島第一原子力発電所事故をきっかけに、設備更新にて様々な省エネ・創エネを実施し、CO<sub>2</sub>排出量・電気使用量が共にピークだった2014年に比べ、2020年はCO<sub>2</sub>排出量を140t→70tと半分に減らすことができました。今後は実質CO<sub>2</sub>排出0(ゼロ)を目指し、社会への脱炭素化への一助となる製品作りに取り組みます。



▲ オフグリッドモビリティスペース(トレーラー)と従業員



▲ アウトアブランドの立ち上げ(焚火台)



▲ 受賞に安堵する三瓶修代表取締役

### 審査コメント

2030年までに脱炭素を宣言し、まさに実現する手前まで歩みを進めている点が素晴らしいと思いました。CO<sub>2</sub>排出量を削減するため、設備導入から省エネ・創エネ、果てはアウトアブランドの立ち上げまで、どこまで未来型の町工場に変貌されていくか、今後の活動にも期待しています。

審査委員長 江守 正多

### 受賞者コメント

この度は私たちのような中小企業の町工場に「環境大臣賞金賞(企業・自治体部門)」を選出いただき誠にありがとうございました。弊社は東日本大震災による福島県第一原子力発電所事故をきっかけに、CO<sub>2</sub>の排出削減を目指し、設備更新や様々な省エネ・創エネを実施し、CO<sub>2</sub>排出量・電気使用量共にピークだった8年前に比べ、半分に減らすことができました。

今後は2030年までの7年間で事業エネルギーの実質CO<sub>2</sub>排出0企業にチャレンジし、新たな取組も進めてまいります。また、自社の商品開発した製品でのCO<sub>2</sub>排出抑制や、教育現場や講演会での脱炭素推進活動を通じて自社だけに留まらず、社会全体の脱炭素化へ加速が実現できるように取り組んでまいります。



## 環境大臣賞 金賞〈市民部門〉



社会福祉法人藤英会 特別養護老人ホーム  
潮見台みどりの丘

神奈川県

プレゼン動画は  
コチラ



### すべては小さな1歩から

要介護3以上の方が暮らす特別養護老人ホームではほとんどの方がおむつを使用しています。使用済みのおむつを捨てるために1日に600枚、1か月18,000枚、1年で216,000枚のビニール袋が必要ですが、防臭防湿効果のある新聞紙を使用しています。また、1日4回の除菌清掃活動では1日に80枚、1か月2,400枚、1年で28,800枚のペーパーが必要ですが古布を使用しています。いずれも捨てる物の再利用となります。



▲ 使いやすいサイズに新聞紙を折る入居者の皆さん



▲ ビニール袋の代わりに新聞紙を代用して使用済みおむつを廃棄



▲ スタッフ集合で喜びがあふれた表彰式

#### 審査コメント

新聞紙の再利用は、脱炭素の意味では効果が限定的ですが、自分たちの行動で社会がよくなるという思いが感じられるプレゼンでした。いずれ私たちも年を取ると考えると、老人ホームに入居する高齢者の皆さんの笑顔は特に印象に残りました。これからも取組が継続し、気持ちの輪をつなげていっていただければと思います。

審査委員長 江守 正多

#### 受賞者コメント

環境大臣賞金賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。高齢者施設から未来にむけた「小さな1歩」は、新聞紙を再利用した活動を発表させていただきました。「誰かの役に立ちたい」と入居者様、ご家族様、地域の皆様のご協力で13年間コツコツと笑顔で取り組んできました。成果を問うものではなく「人の生き方」を問う内容でした。栄誉ある環境大臣賞金賞に輝くとは全く想像していませんでした。「私にもできる」と輪が広がり、一人でも多くの方が脱炭素社会に向けて行動できるように尽力してまいりたいと思います。



## 文部科学大臣賞〈社会活動分野〉



ひさやままち  
**久山町**

福岡県

プレゼン動画は  
コチラ



## カーボンネガティブ&ネイチャーポジティブのまちづくり

2022年3月、脱炭素への取組を推進するため、全国初となる「カーボンネガティブ&ネイチャーポジティブ」を宣言しました。本町では、豊かな自然を強みとする一方で、農林業従事者の高齢化や担い手不足により将来世代への継承が危ぶまれています。そのため、目に見えない自然の価値を可視化すること、暮らしの中で実感することに重きを置いて8つの取組を同時進行し、「生産・消費・人材育成」の循環モデルを構築します。



▲約30名が参加してDIYと植栽を体験



▲約80名で110本を植樹した早生桐植樹祭



▲受賞の喜びをにじませる西村勝町長

### 審査コメント

カーボンネガティブは、CO<sub>2</sub>排出量よりも吸収量が多い状態のことを言い、ネイチャーポジティブは自然生態系の損失を食い止め、回復させていくことを言います。自治体でこれだけの気概を持って、脱炭素に向かっていく姿に感銘を受けました。規模の大小は関係なく“できる”ことが全国の自治体に届くことを願っています。

審査委員長 江守 正多

### 受賞者コメント

この度は、このような素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。本町は、「持続可能な脱炭素社会の実現」のためには、「経済」だけではなく「人づくり」が必要不可欠であると考え、町民の皆様をはじめ、企業・団体の皆様とともに活動を進めています。一つ一つは小さな取組かもしれませんが、その積み重ねが、未来に向けた大きな循環を生み出し、豊かな自然環境の継承につながると確信しています。今回の受賞を励みに、今後も「楽しみ」「ワクワク」をキーワードに、更なる活動のフィールドを広げ、持続可能な脱炭素社会の実現に向けて挑戦を続けてまいります。最後になりましたが、大会関係者の皆様をはじめ、応援して下さった皆様により感謝申し上げます。



## 文部科学大臣賞〈学校活動分野〉

長崎県立諫早農業高校  
バイオ園芸科

長崎県

プレゼン動画は  
コチラ

## フードロスニュートラルで目指す環境保護活動

私たちは県内の離島、対馬市と連携して、約30年間環境保護に関する取組を行っている。対馬市では、年間に家庭から約2,660トンの食品残渣などの生ゴミを排出している。この生ゴミを焼却するのに、約4,200トンのCO<sub>2</sub>を排出しているのが現状である。私たちは対馬市と連携し、食品ロスを堆肥化や飼料化する活動を開始した。現在までに約2,255トンの堆肥化に成功し、約4,000トンのCO<sub>2</sub>削減に成功した。



▲こども園で食品残渣の堆肥を使って野菜栽培



▲オリジナル堆肥の有効性を実証実験



▲歓喜の音が響いた表彰式

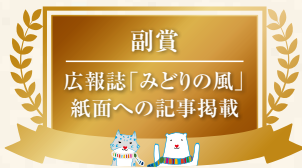
## 審査コメント

食品ロスの肥料化・飼料化を地域ぐるみで実現しており、脱炭素に寄与する素晴らしい活動です。CO<sub>2</sub>削減量も数値化されており、活動の年月の長さや深さを感じました。離島でのゴミを「燃やす」から「活かす」に変えた、フードロスニュートラルの取組は、協力者人口が増えていけば、できないこともできると思わせる内容でした。

審査委員長 江守 正多

## 受賞者コメント

この度は、文部科学大臣賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。私たちは、対馬市と連携して、食品ロスと二酸化炭素問題の2大問題を解決することを目標に「フードロスニュートラル」活動を行ってきました。この活動を多くの方々にも認識していただき、食品ロスを出さないという意識改革をしていただくことが脱炭素社会の実現につながると信じています。今回、このような賞に選んでいただいたことで、さらに多くの方々への意識改革につながったと思います。大会運営の方々、コロナ禍に私たちの活動を全国へと発信できる場をいただけたことをとても感謝しています。誠にありがとうございました。



**長野県**  
**佐久平総合技術高等学校**  
長野県

## カスを価値に！～未来へ佐久酒粕プロジェクト～

本校が位置する長野県佐久市は、市内だけで11蔵元を有するほど日本酒造りが盛んで、佐久地域の食文化を支えています。一方で、日本酒造りのいわば“残りかす”である酒粕は、近年需要が低迷し、産業廃棄物や家畜の飼料用として処分される量が増えてきているのが問題となっています。私たちは地域企業と連携して酒粕の需要拡大やSDGsの推進・啓発に係る環境活動に取り組んでいます。



▲ 酒米とラベルを作り、地元の戸塚酒造店で日本酒を醸造



▲ 地元パン店に指導を仰ぎ、酒粕商品を開発



▲ 受賞の喜びを噛み締める高校生

### 審査コメント

地域の食文化を支える日本酒造り、その残りかすである酒粕をサーキュラーエコノミーとして実現させた素晴らしい取組です。また、地元企業との商品開発による地産地消の推進、地域資源(酒粕)の魅力と地域課題(食品ロス)の発信と啓発活動、子ども食堂での酒粕商品の無料提供など、まさに、皆さんの取組は環境省の提唱する「地域循環共生圏」であり、人・もの・お金・思いを循環させ、強い地域づくりに貢献していると思います。酒粕の循環させる取組を通じ、地元を大切にしている活動であることを高く評価させていただきました。

一般財団法人セブン-イレブン記念財団 事務局次長 松井 敬司

### 受賞者コメント

この度は「セブン-イレブン記念財団最優秀地域活性化賞」に選出いただきありがとうございました。私たちは「カスを価値に」を合い言葉に、捨てられてしまう酒粕のアップサイクルに取り組んできました。活動を通して、微力ながら地域の課題解決や地域活性化の一助になったこと、活動を評価していただいたことを大変うれしく思っています。私たちはたくさんの人を巻き込みながら活動を行ってきました。その中で、多くの人々の行動変容につなげることができ、持続可能な未来へ一歩ずつ近づいていることを実感しています。これからもたくさんの人を巻き込みながら脱炭素にチャレンジしていきます。今後の活動にもご注目ください。未来へ佐久咲け！





ユニ・チャーム  
最優秀やさしさでささえる賞



まえわたり  
ひたちなか市立前渡小学校

茨城県

プレゼン動画は  
コチラ



## 学校観察園「ほたるの森」生き物を守り 「脱炭素の行動」へ

西暦2000年頃、子どもたちが学び遊べる観察園を造りたいと発案したのが始まりである。藪であった裏山を整備する際、教職員はもとよりPTA、地域のおやじの会、地元企業など多くの方の協力をいただいた。その後、児童の自然観察や体験学習を中心にしている。特に、隔年等で初夏にホタルの放流を行うとともに、ビオトープ学習会、ホタルの観察会を継続し、よりよい環境の維持のために何ができるかを考えさせている。



▲ビオトープ「ほたるの森」での生き物観察



▲小学2年生が行うホタルの放流



▲割れんばかりの歓声が響いた表彰式

### 審査コメント

茨城県ひたちなか市立前渡小学校では、2000年頃より「子どもたちが遊べる観察園を造りたい」と生徒自ら発案し、教職員、PTA、地域の「おやじの会」、地元企業等多くの方の協力を得て、藪であった裏山を整備して観察園を造り、生き物を守り、自然を大切にする活動を実施されています。この取組を通じて、地球温暖化防止活動の必要性を学び、持続可能な取組を展開することにより、年間28トンのCO<sub>2</sub>排出量削減という素晴らしい結果を残すことにつながりました。茨城県ひたちなか市立前渡小学校の皆さんの取組は、当社のパーパスである「SDGsの達成に貢献する」と親和性が高く、「最優秀やさしさでささえる賞」にふさわしいと判断し、選出いたしました。

ユニ・チャーム株式会社 ESG本部 E&Sグループ 熱田 靖

### 受賞者コメント

本校と縁のあった多くの方々が、20年以上にわたって紡いできたことが形となり、うれしく思っています。脱炭素チャレンジカップに出場できたことは、「継続」と「人とのつながり」による幸運であり、感謝しています。今回を機に、脱炭素は今向き合うべき最も大切な課題の一つであることを知りました。当日に至るまで代表委員の4・5・6年生は、担当教諭とともに発表に向けての時間を仲間と楽しみました。そして本番は東京大学という空間とつながって全校児童・教職員が参観し、脱炭素の知識と意識をみんなで共有しました。我が校の取組はまだこれからですが、脱炭素の必要性についてさらに考え、今できることを見つけて実践していきます。

ニトリ  
NITORI

ニトリ  
最優秀夢・未来賞

プレゼン動画は  
コチラ



副賞

記念品贈呈



みとよ

三豊市立下高瀬小学校

香川県

## STOP地球温暖化 ～もったいない・ありがとう・楽しく～

小学4年生が地球温暖化防止を目的に省エネ活動を実践した取組です。キーワードは、「もったいない」「ありがとう」「無理せず楽しみながら」です。4年生は、専門機関や大学、企業、他校と連携しながら、自分たちにできることを考え、実践し、活動を発信してきました。今では、核となる4年生が全校に活動を紹介し、全校生で省エネ活動に取り組んでいます。また、家庭にも活動成果を発信し、省エネ活動の広がりを進めています。



▲ 四国電力の出前授業を受ける子どもたち



▲ 文化祭で私たちにできることを発表



▲ 株式会社ニトリホールディングス 常務執行役員  
組織開発室 室長 大木 満 様が賞状を授与

### 審査コメント

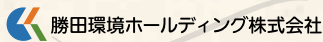
「もったいない」「ありがとう」「楽しく」という、誰でも親しみやすいキーワードを掲げ、皆で声を掛け合いながら、地球温暖化防止に向けた省エネ活動を推進されている姿がとても印象的でした。「新・下小もったいない憲法」を掲げ、ポスターや校内放送での全校生徒への案内だけでなく、省エネパトロールやエコ名人認定バッジの制作・配布など「楽しみながら続けられる」工夫が散りばめられていた点も素敵でした。

「一人の力を大きな力に」という力強いメッセージのもと、校内に留まらず専門機関や企業・他校との連携も積極的に行われており、更に「脱炭素チャレンジカップ」という場で全国に発信されているお姿が、「脱炭素への取組を通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来をみんなで築いていく」という想いを込めた「ニトリ最優秀 夢・未来賞」との親和性が高いと考え、選出させていただきました。

株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

### 受賞者コメント

この度は、「ニトリ最優秀夢・未来賞」に選出いただき、ありがとうございました。子どもたちも大喜びの受賞でした。本校の取組は、子どもたちが主体となって、地球温暖化防止のための省エネを校内に、家庭に、地域に広げていく活動です。その過程で、自分たちの生活を支えている人や物に「ありがとう」と「もったいない」の気持ちを育んできました。また、「楽しく」継続するための工夫やアイデアを行動につなげることで、子どもたちの実践力も養ってきました。ファイナリストの皆様の素晴らしい取組から学んだことをもとに、今後も全校生で自分たちにできる脱炭素への取組を広げていきます。



## 勝田環境 カーボンニュートラル賞



## 大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

大阪府

プレゼン動画は  
コチラ

# 目指せ脱炭素！地球温暖化防止プロジェクト

自然災害が多発している昨今。地球温暖化防止のために、脱炭素化を考え、あらゆる水を飲料水にできる「浄水装置」と「バイオディーゼル発電機」(不要な油を使って電気を作る発電機)を製作改良した。さらに、プラスチックゴミから燃料油ができる「プラスチックゴミ油化装置」も製作した。油化装置でできた油を「浄水装置」と「バイオディーゼル発電機」に入れると水と電気ができる。すなわち、プラゴミから水と電気ができる取組となっている。



▲ 開発したバイオディーゼル発電機と学生たち



▲ プラスチックゴミ油化装置に素材を投入



▲ 生徒と先生で受賞の喜びを分かち合う

### 審査コメント

「大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程」の皆様、「勝田環境カーボンニュートラル賞」受賞おめでとうございます。

勝田環境グループは、廃棄物を運搬・選別した上で木くずをチップ化し、リサイクルに適さないチップをグループ内の発電施設へと運び、1時間に4,990kwを発電しています。そして、場内の消費電力を除いた4,300kwを特定規模電気事業者に売電しています。また、各家庭から集めた天ぷら油も原料として、グループ内の精製プラントにてバイオディーゼル燃料(BDF)化し、ひたちなか市役所が所有している車両用に供給販売しています。皆様が考えた通りの工程で、地域密着型の企業として循環型社会に貢献しています。これからも一緒に脱炭素を考え、地域の方々と共に成長し続けていきましょう。

勝田環境ホールディング株式会社 代表取締役 望月 福男

### 受賞者コメント

この度は、身に余る賞をいただきありがとうございます。多くの全日制高校が参加する中で、夜間定時制高校の活動を認めていただけたことが、何よりもうれしかったです。そして、自然災害が多発している現在、多くの方々が「脱炭素」を意識して日常生活を過ごすことを心から願います。一人一人が意識を持って生活すれば、「地球温暖化」を防止することが必ずできると信じてやみません。これからも受賞したことを励みに、「捨てればゴミ、活かせば資源」、「微力だけれども無力じゃない」をモットーに一歩ずつ一歩ずつ前に進んで、この美しい地球を次世代に伝えていきたいと思っています。



## だいやエコクラブ

長崎県

## 気候変動待ったなし！ ～こどもだってできるeアクション～

今、世界中では「気候変動」が深刻な問題となっています。それを人類が解決しなければなりません。未来の地球を守るために、私たちは日頃から地球温暖化防止活動「こどもだってできるeアクション」に取り組んでいます。ひいおばあちゃんの古民家の庭を開墾し、「サステナブルファーム」でグリーンカーテンや四季様々な野菜を育てる「循環型農業」や「こどもツーリズム・エコ株式会社」を運営しています。



▲こどもエコ・ツーリズムエコ主の皆さん



▲ COOL CHOICEクイズを出題



▲日本WPAが立派な特製盾を贈呈

### 審査コメント

発表のタイトル「気候変動待ったなし！～こどもだってできるeアクション」が素晴らしい！「こどもだってできる」ではなく「おとなでもできない」ことへの取組を、長年継続して取り組んでいる活動に感動しました。ユニークな「こどもツーリズム・エコ株式会社」の活動がSDGsの多くのゴールに貢献し、脱炭素社会実現への確実な歩みとなると感じました。「落ち葉も資源だ!」にも共感です。日常生活でできる身近なeアクションがもっともっと広がることを期待しています。みなさんの地元の豊か度かけがえのない自然の恵みが、永遠に続くように、これからも応援していきます。

一般社団法人日本WPA 事務局長 小川 勇造

### 受賞者コメント

この度は「日本WPA最優秀未来へのはばたき賞」という素晴らしい賞を授与していただきありがとうございます。私たちの活動をこのように評価していただき本当にうれしく思います。私たちが特に力を入れて取り組んでいるサステナブルランドでの脱炭素社会に向けた循環型農業の質をさらに上げていくために、本来は廃棄されてしまう生ごみ、雑草や落ち葉を使い有機性肥料を作りたいです。そして市道や放置竹林の整備で地域社会の環境美化にも貢献していきます。この受賞を機に、さらに脱炭素社会に向けて活動を継続していきます。皆さん一緒に脱炭素にチャレンジしましょう！let's all try to decarbonize together！



ユタコロジ  
最優秀チャレンジ賞



ラピスプライベート

京都府

プレゼン動画は  
コチラ



## 地域の余剰野菜が生まれ変わった 【おやさい絵の具】プロジェクト

市場に並べることができない、いわゆる規格外野菜を全国各地の農家様から提供、または買い取ります。そうして集まった規格外野菜を「おやさい絵の具」に加工します。「おやさい絵の具」は100%天然由来の成分を使っており、人にも環境にもやさしい商品です。SNSでの個別販売、または、イベント企画会社様などのイベントを行われる企業様に大量ロットでの販売も対応しています。



▲ おやさい絵の具は素材の色



▲ ラピスプライベートの皆さん



▲ ユタコロジ株式会社が記念盾を贈呈

### 審査コメント

見える効果が高いことから脱炭素への取組は工業製品や技術の置き換えが主流となっていますが、地域の余剰野菜を原料とした【おやさい絵の具】を開発・販売するという芸術的な側面からアプローチされているチャレンジを高く評価し本賞に選出させていただきました。また、絵の具という親しみがありながらもユニークな製品を用いたワークショップを通じて脱炭素に関心が低い方々への啓発活動をされている点も評価しました。脱炭素＝“難しく縁遠い”イメージになっている方々に今後も独自の観点で発信し、楽しみながら脱炭素に関われる架け橋になっていただけることを期待しています。

ユタコロジ株式会社 総務部長 久米 明日樹

### 受賞者コメント

この度は、脱炭素チャレンジカップ2023のファイナリストとして選定していただき誠にありがとうございました。脱炭素チャレンジカップに出場できたことで、より多くの方にラピスプライベートの活動を知ってもらえることができました。さらに、ユタコロジ最優秀チャレンジ賞という素晴らしい賞をいただくことができ、非常にうれしく思っています。これからは、ラピスプライベートの目標である教育コンテンツの確立と共に、脱炭素社会に向けたさらなる取組を行いたいと思います。



レンゴ  
最優秀脱炭素未来づくり賞



あけがわ  
八尾市立曙川小学校

大阪府

プレゼン動画は  
コチラ



## つながりつづく エネルギー環境教育をめざして

人が乗れるソーラーカー、ソーラーパネルを活用したゲンジボタルの完全養殖、自転車で発電できるイルミネーションなど、これまでの取組を未来の子どもたちにどのように残していくかを考え、SDGsに関する出前授業などを活用しながら学校としてできることを続けています。



▲ 子どもたちがデザインした2代目ソーラーカー



▲ ビオトープではホテルが飛翔



▲ 飛び跳ねて受賞の喜びを表現してくれた子どもたち

### 審査コメント

八尾市立曙川小学校では、学校内に在るビオトープを通じて、長年に亘り、生物多様性の取組を環境教育として組み込まれ、次世代の生徒の方々に「環境の取組の重要度」を教示されておられます。また、生徒の方々も先生方の環境教育を真摯に受け止めて、学校全体で脱炭素の未来をつくるための活動を行っておられることを高く評価し、「レンゴ最優秀脱炭素未来づくり賞」に選出させていただきました。

この活動が長年に亘り継続されていることも、次世代の子どもたちに受け継がれる未来の地球環境に大きく役立つ財産である点も高く評価しました。

レンゴ株式会社 環境経営推進部 部長 矢野 琢司

### 受賞者コメント

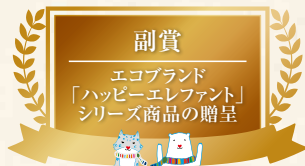
この度は「レンゴ最優秀脱炭素未来づくり賞」をいただき、ありがとうございました。本校の取組の特徴は、子どもたちと地域や協力してくれる多くの方々がつながり、今も続いていることだと思います。今回発表した6年生からは、脱炭素チャレンジカップ後に「もっとこんな工夫ができるのでは」と、取組をさらに発展させようとする前向きな言葉が出ていました。活動を続ける中で子どもたち自身が学びを深めていく様子が見られ、とてもよい機会をいただいたと感じます。

受賞しました「未来づくり」の言葉通り、わたしたちの活動がこれからの未来をつくると信じて、これからも子どもたちと一緒にできることを見つけ、実践していきたいです。

いのちをつなぐ

**SARAYA**

いのちをつなぐ**SARAYA賞**



**みなと環境にやさしい  
事業者会議 (mecc)**

東京都

プレゼン動画は  
コチラ



## meccコンポスト

コンポストは生ごみ等の有機物を微生物の働きを活用して発酵・分解させ堆肥を作ります。「meccコンポスト」ではコンポストを会員事業者へ配り、堆肥を作成しました。堆肥は一般社団法人竹芝タウンデザインと港区と共に取り組んでいるホップ栽培及び、千葉県山武市で化学肥料や農薬を一切使用せずに野菜作りをしている農家への提供を行いました。栽培したホップで作ったビールや野菜は港区内で販売し、循環型社会を目指します。



▲ コンポストで作った野菜を販売



▲ 58の事業者が実施するコンポスト



▲ 受賞の感謝を述べた事務局の高木さん

### 審査コメント

首都東京の中でも多くの企業や団体が集中する港区において、企業と地域、区民が一体となり、堆肥化から区内、近隣市への堆肥提供、またホップを活用した地ビールの販売等を通じた、区内の地産地消のビジネスモデルという循環社会実現に向けた取組は、日本全国でも拡がりを見せるモデルケースになると思います。生物に豊かさをもたらす地球を次世代に繋ぐため、今まさに産官学が連携し、すぐにでもアクションを起こす必要があります。様々な課題解決のため、貴団体のノウハウやパートナーシップが、社会の裾野へと普及・展開していくための発信の場として機能することも期待しています。

サラヤ株式会社 取締役 コミュニケーション本部本部長 代島 裕世

### 受賞者コメント

この度は「いのちをつなぐSARAYA賞」に選んでいただき、ありがとうございました。港区は、東京の中でも企業や各種団体の本部機能が集中しています。この特長を生かして事業者と区民と区が連携して新しい協働の場を確立できれば、これまでにない環境保全の取組「みなとモデル」を発信できると思います。みなと環境にやさしい事業者会議(mecc)は、業種も立場も異なるさまざまな事業者たちが同じ目線で出会える場に、環境に対する互いの意識を高めあえる場に、そしてアイデアが次々とカタチになっていく活気のある場でありたい。

この場を多くの方に知っていただき、参加してもらうことで、協働の場を広げて、港区から脱炭素社会の実現を目指し活動していきたいと思っています。



## 青森県立むつ工業高等学校 課題研究 地中熱融雪研究班

青森県

プレゼン動画は  
コチラ



## 地中熱利用による融雪研究と農業

地下10m~60mで得られる地中熱を利用することで、道路や歩道の融雪、住宅内補助冷暖房、ビニールハウス内での水耕栽培の実証実験に取り組み、地域振興に成長させることでSDGsの目標達成、脱炭素社会実現を目指す取組である。



▲ 地中熱融雪装置システムのビニールハウスの骨組みと学生



▲ 町内会が寄贈した蓄熱材のアルミ缶



▲ フリップを使ったプレゼンが印象的だった  
むつ工業高校の皆さん

### 審査コメント

地中熱エネルギーは、場所や天候に左右されずに利用できる再生可能エネルギーで、農業分野では熱需要の大きいハウス栽培等で、その応用の可能性が検討されています。今回の発表は、冬季の暖房・融雪等の安定的な熱源として、まさに、その地域環境に適した地中熱を活用した研究だったと思います。皆さんの若い世代が、カーボンニュートラルの実現に向け、今後もどんどん新たなことにチャレンジしていくことを、心から期待しています。

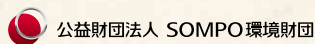
一般社団法人炭素会計アドバイザー協会 理事 山田 英司

### 受賞者コメント

この度は、炭素会計アドバイザー協会賞をいただき誠にありがとうございます。私たちは雪国の宿命である「雪かき」のいない社会を目指して地域限定という視野で活動を行ってきました。今大会に、はじめて参加させていただき、脱炭素チャレンジカップは、温室効果ガス削減を目指しており地球規模の大きな視点で活動していることを学びました。また、炭素会計アドバイザー協会を調べることで、そういう資格があることをはじめて知り、視野を大きく広げることができました。

未開発の地中熱、地熱をもっと活用することで、カーボンニュートラルの達成に向け、今後も脱炭素社会を目指して融雪研究と農業に取り組んでいきます。ありがとうございました。





## SOMPO環境財団 最優秀わくわく未来賞



### 杉並区立西田小学校

東京都

プレゼン動画は  
コチラ



## 「ユネスコスクールNISHITAの挑戦～未来の学校～」

2021年度の小学6年生が、さらなる地域連携を目指し、「子供と大人が話し合う時間」の実施と、大人の協力や協働を行う「チームESD」設立を、学校と学校運営協議会が共催で実施する「未来の学校」で提案した。2022年度はこれらを活用しながら、特に5学年が温暖化防止について取り組んでいる。「2100年の天気予報」からの学びを通して、脱炭素社会の実現に向け、学校全体や地域を巻き込んだ仕組づくりに取り組んでいる。



▲ 保護者や地域住民が参加する「子供と大人が話し合う時間」



▲ 落ち葉を集めて堆肥づくり



▲ 教室いっぱい集まってプレゼンした子どもたち

### 審査コメント

SOMPO環境財団では「最優秀わくわく未来賞」という名称で、未来の地球環境を守る人材の育成を応援しています。杉並区立西田小学校の「ユネスコスクールNISHITAの挑戦～未来の学校～」は、学校全体で「2100年の天気予報」から地球環境問題について学び、脱炭素社会の実現に向け、子どもたちが主体となり、地域を巻き込むなど活動が広がっている大変すばらしい取組です。明るい未来作りにつながる環境教育の更なる発展も期待しています。

公益財団法人SOMPO環境財団 事務局長 鈴木 順子

### 受賞者コメント

この度は「SOMPO環境財団最優秀わくわく未来賞」という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございました。私たちの日々の学習の成果が認められたことがとてもうれしいです。またこれまでの努力が実ったとすごく実感しています。西田小学校では校内だけでなく、地域も巻き込んで脱炭素社会に向けた取組をしています。それらの取組をするにあたって、地域の方、大人などの方々と協力しないとできないことがあると気づかされました。西田小学校では「気づいたことを生かして行動に移す」ことを大切にして今までも、これからも脱炭素化に取り組んでまいります。そして近い未来に、西田小学校の取組の成果が脱炭素社会を実現すると信じています。



## ウェイトボックス 最優秀CO<sub>2</sub>の見える化賞

プレゼン動画は  
コチラ



## エコダイラネットワーク

東京都

# 市民の環境意識向上と行動変容を促すための取組

小平市の環境、ひいては地球環境保全のため、以下のような活動を行っています。

- ・環境学習講座、市民版環境配慮指針啓発支援講座、環境フォーラム等の環境イベントの企画運営、ブース出展(年10回程度開催)
- ・市民版環境配慮指針の普及、「小平流暮らしの工夫」の実践
- ・小平市環境家計簿の普及(2005年から紙版を開始、2013年よりweb版をスタート、2017年にアプリ版をリリース)
- ・小学校への出前授業(年10校程度)



▲ 蓄電池講座で講師を担当



▲ 環境フェスにブース出展



▲ オリジナルのうちわを持って参加したメンバー

### 審査コメント

エコダイラネットワークの皆様、この度は受賞おめでとうございます。オンラインでのプレゼンテーションを拝見し、皆様が緑のカーテンをはじめ様々な省エネ活動に取り組まれ、かつ多くの市民イベントにも参加され、温室効果ガス削減活動の普及啓発に取り組まれていることを知りました。その中でも、特に環境家計簿アプリの作成は大変画期的な取組だと感じました。まずは見える化をすることで、効率的に削減への道筋を立てることができると思います。是非、皆様の活動が全国の多くの皆様に広がり、日本全体の脱炭素化が進むことを望みます。この度は本当におめでとうございます。

株式会社ウェイトボックス 代表取締役 鈴木 修一郎

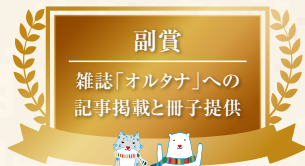
### 受賞者コメント

この度は、「ウェイトボックス最優秀CO<sub>2</sub>の見える化賞」という大変素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。我々エコダイラネットワークは小平市の環境、ひいては地球環境を良くしていきたいという思いで20年来、小平市内を中心に活動してまいりました。省エネブック「市民版環境配慮指針」の作成・啓発や二酸化炭素排出量が一目でわかる「小平市環境家計簿」のアプリ開発に携わることで、楽しみながらできるエコライフを伝える取組を進めてきた結果がこのように評価されたことは大変喜ばしく思います。これからも脱炭素・地球温暖化を始めとする環境問題について“つつい”考えるような仕掛けを積極的に打ち出していきます!ナイスエコダイラ!

「alterna」  
alterna

「alterna」のソーシャルビジネス・マガジン!

オルタナ  
最優秀ストーリー賞



株式会社バイオテックス

佐賀県

プレゼン動画は  
コチラ

## 地域資源を活かした「ZEB化さがモデル」開発への挑戦

自社のZEB化を目指すにあたり、地域特性や地域資源を活かした「ZEB化さがモデル」の開発にチャレンジしています。特に、地中熱利用に関しては、隣接農地の地中シェアリングによる導入コスト削減、佐賀県の伝統工芸品である有田焼を用いた放熱器開発の構想など、脱炭素化のみならず、地域活性化や地域産業振興にも資するプランについて、県内各所と連携し、試行錯誤しながら検討しています。



▲ ZEB化を進める木造2階建ての社屋と従業員



▲ 地中熱を利用するための掘削工事



▲ 受賞を喜んだ表彰式

### 審査コメント

株式会社バイオテックスは、日本でもまだ少ない「木造既存建物のZEB(ゼロ・エミッション・ビルディング)化」に挑んでいます。2050年の脱炭素目標に向けては、温室効果ガス(GHG)の削減とともに、ビルや家屋の「断熱化」が急務です。このプロジェクトは、断熱性能が低い「木造の構造物」から着手されましたが、日本に同様の構造物が多数存在していることを考えると、その可能性はさらに広がりそうです。さらに、地中熱冷暖房(ヒートポンプ)を活用しており、エネルギー使用の削減に多大な寄与をすると確信しています。今後の展開を楽しみにしています。

株式会社オルタナ 代表取締役 編集長 森 撰

### 受賞者コメント

この度はオルタナ最優秀ストーリー賞をいただき、ありがとうございます。私たちの未来に向けてのストーリーをご評価いただけたことを大変うれしく思います。

私たちのプレゼンテーションでお伝えした、2025年までの社屋のZEB化は、私たちが描く未来への通過点だと思っています。私たちの目標は今まで培った技術を元に地中熱利用システムを地域の産業と連携し、地域の皆様と共に広げていくことです。地中熱利用システムを軸とした「ZEB化さがモデル」の技術を確立させ、その第一歩をまずは佐賀県から、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいきます。そして佐賀から全国へ、さらにその先には世界へと広げていけるよう、今後も研究・開発や普及活動に取り組んでまいります。この度は誠にありがとうございました。



特定非営利活動法人  
スパッと鳴子温泉自然エネルギー

宮城県

## 鳴子温泉の再生可能エネルギーとしての 利活用学習プログラム

大震災での原発事故とライフライン途絶を教訓に、生活基盤を維持するためのエネルギーと気候変動問題の理解による自然環境との調和的持続性の重要性を再認識し、地域エネルギーの確保には再生可能エネルギーの地産地消が重要との信念のもと、再生可能エネルギーの利活用関連施設における体験教室や地元校との協力による実験教材開発を企画した。これらを利用した東北大の出前授業プログラムを地域の小中学校に提供し続けている。



▲ 温泉施設に導入されたバイナリー発電を見学



▲ 出前でバイオガス教室



▲ 地熱発電システムを再現した装置を披露

### 審査コメント

温泉地であることを活かして、地熱エネルギーの重要性や仕組みについて、実験道具を使ってわかりやすく説明しており、生徒の心に残る授業だと感じました。授業を受けた人たちが、脱炭素の意識を高めるとともに、地元が大好きになると思いました。活動のさらなる広がりを期待しております。

NPO法人気象キャスターネットワーク 理事 名倉 直美

### 受賞者コメント

この度は気象キャスターネットワーク最優秀市民・学校エコ活動賞をいただきありがとうございます。

ご評価いただきましたこと誠に光栄です。地元小・中学生を対象に、専門家による座学と体験授業の二部構成で、地熱等再生可能エネルギーの地産地消をキーワードに、「地域の学びの場」を提供する活動にこの上ない副賞をいただけることにも感激しています。これからも子どもたちに伝える学びが脱炭素の実践につながるよう活動していきます。

再エネ100宣言  
RE Action

再エネ100宣言 RE Action賞



株式会社宮城衛生環境公社

宮城県

プレゼン動画は  
コチラ



## 脱炭素社会の実現に貢献する 廃棄物処理業者の取組

2018年に脱炭素経営を成長戦略に掲げ、太陽光発電などの再エネ導入に向けた取組を開始、2020年には再エネ100%を達成し、その後も蓄電池、V2X、PHVの導入など自社の脱炭素化を積極的に推進した他、森林保全活動へも参加するなど地域の脱炭素化にも取り組んでいます。中小企業としてできることから取り組み、講演や各種媒体によって推進内容を県内外に発信し、脱炭素社会の実現に向けて努力しています。



▲ 森林保全活動



▲ PHV車・蓄電池を導入



▲ 賞状授与

### 審査コメント

株式会社宮城衛生環境公社は、2018年に脱炭素経営を成長戦略に掲げ、2019年に宮城県内初の再エネ100宣言 RE Action 参加団体となり、再エネ100%達成目標を公表しました。その後、太陽光発電を導入し、宮城県産の再エネ証書を組み合わせ、2020年には再エネ電力100%を達成しています。さらに、蓄電池、V2X、PHVの導入などにより、自らの脱炭素化を積極的に推進して取組の幅を広げ、今では中小企業の脱炭素経営のリーダー的存在になっています。同社が「社員が誇りに思える会社」を目指し、2018年から脱炭素経営を実践してきた実績は、高く評価できます。今後の取組の発展にも期待しております。

再エネ100宣言 RE Action 協議委員 梅田 靖

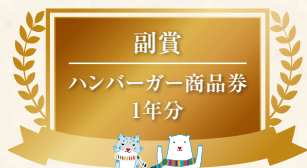
### 受賞者コメント

この度は、栄誉ある賞をいただきましたこと誠にありがとうございます。脱炭素を経営の方針として掲げ、宮城県で最初に再エネ100宣言RE Actionへの参加、自家消費型太陽光発電と東北産由来の電気での再エネ100%の実現など一つ一つ着実に脱炭素化を推進し、中小企業としての取組を全国の皆さんに見ていただくことができ大変うれしく思います。そして、2023年度には、使用済み太陽光パネルリサイクルセンターを新たに稼働させ、資源の循環を進めることとしております。

今回の受賞を励みに、今後も「明るい衛生環境づくり」の企業理念を基本にSDGsを見据えた脱炭素経営・環境経営の積極的な推進に取り組み、脱炭素社会の実現に向けて貢献してまいります。



## マクドナルド オーディエンス賞



審査方法

マクドナルドオーディエンス賞は、視聴者のWEB投票によって受賞団体が決定する賞です。投票者は事前登録の上、ファイナリスト29団体すべての発表を閲覧し、最も感銘を受けた2団体に投票します。今回は、254票の投票の結果、上位2団体がオーディエンス賞として決定しました。



## 株式会社バイオテックス

佐賀県

### 地域資源を活かした「ZEB化さがモデル」開発への挑戦



#### 受賞者コメント

この度は多くの投票をいただいたことでマクドナルドオーディエンス賞を受賞することができ、誠にありがとうございます。今回のプレゼンテーションが沢山の皆様に共感いただけたことを大変嬉しく思います。私たちは平成元年の創業より地下に管を布設する工事やボーリング工事等の地盤に関する工事に携わって参りました。そのノウハウを地中熱利用システムに生かし、これからもその技術の向上に努め地中熱を軸に地域の皆様と共に脱炭素社会の実現に貢献していきたいと考えております。また2025年に社屋のZEB化が実現した暁には、再度脱炭素チャレンジカップにエントリーしファイナリストとして参加できるよう、そして皆様にご評価いただけるように今回の取組を着実に進めて参ります。この度は誠にありがとうございました。



## 社会福祉法人藤英会 特別養護老人ホーム 潮見台みどりの丘

神奈川県

### すべては小さな1歩から



#### 受賞者コメント

「聞く人を一番感動させた賞」と紹介され名前を呼ばれた時は驚きと喜びで感極まってしまいました。本当に嬉しかったです。みどりの丘の小さな一歩は、内容も実績も地味で皆さんに受け入れてもらえるか不安でした。「オーディエンス賞」に輝いたことで自信と誇りが持て、幸せを感じています。高齢者の皆さんと一緒に喜びを分かち合いたいと思います。

おめでとうございます!



副賞「ハンバーガー1年分」が日本マクドナルド株式会社コミュニケーション&CR本部サステナビリティ&ESG部 牧陽子部長から贈られました。



## 審査委員特別賞



## 有限会社リビング館ホンダ

茨城県

プレゼン動画は  
コチラ

## カーボンニュートラルハウス誕生「本州でコーヒー園」

省エネ及び電磁波が出ないLED照明の開発を経て2012年にRYUJINを発表し、低炭素杯2014にてソーシャルイノベーション賞を受賞。その後、様々な農作物の成長を促す波長変換LEDの開発において葉物野菜に効果が出たことから、交流のある沖縄県で「海ぶどう」の生産向上に成果を得た。この技術を駆使し、太陽光発電と蓄電を併用することで、本州でカーボンニュートラルなコーヒー栽培を可能とした。



▲ 送電線がないカーボンニュートラルハウス



▲ RYUJIN照明による海ぶどう栽培



▲ 喜びを噛み締める本田浩一代表取締役

## 審査コメント

太陽光発電と蓄電システムを導入し、送電線がない・電気を使わないビニールハウスは素晴らしい取組です。農業分野でもクリーンエネルギーの栽培法の普及が期待されています。また、プレゼン動画には小美玉市の市長や関係者がたくさん登場し、楽しく拝見させていただきました。これからも茨城県は地域で脱炭素を進められていくことが伝わってくる内容でした。

審査委員長 江守 正多

## 受賞者コメント

この度は脱炭素チャレンジカップ2023におきまして、審査委員特別賞を受賞させていただき、感謝申し上げます。弊社の取組には茨城県環境管理協会様はじめ、地元自治体様、沖縄県地球温暖化防止活動推進員様、スカイマーク様、そして地元エコネットいばらき様、こどもエコクラブ様と本当に多くの方々に応援いただきました。昨今、地球温暖化の更なる変化により、多くの未曾有の自然災害が起きております。そのような情勢の中、農産物についても国内での生産並びに供給率をいかに上げていくかも大事な要素となっております。私どもは、農業分野から微力ではありますが、カーボンニュートラルハウスを提供し続け、地元自治体はじめ多くの皆様と連携し安全・安心はもちろんのこと、脱炭素社会の構築に向け邁進し続けてまいります。

## 優秀賞



### 鹿児島県立農業大学校 農学部 野菜科

鹿児島県

#### 廃棄物利用肥料の地産地消 ～地域循環共生圏のアップサイクル～

プレゼン動画



外来魚・藻・ホテイアオイなど地域に眠る廃棄物を発酵させて液肥を製造し、安全な野菜を栽培・販売、消費者に対して研修で食の大切さを普及啓発する。DXを活用し、SNSの投票機能で多数決型意思決定、オンライン授業など行動変容を推進した。その他、ネット販売、ケチャップ製造、知財創造教育セミナー、体験活動での環境教育、販売会、環境活動、食育活動など地域活性化を目指して社会貢献活動を行っている。



### 北海道大野農業高等学校 果樹専攻班

北海道

#### 北斗市の農業と 豊かな自然を守るために

プレゼン動画



果樹生産において大量に廃棄される規格外果実や剪定枝の堆肥化試験を行い、地域内循環農業の実践や農地への有機物還元による炭素貯留による二酸化炭素削減を目指しています。減農薬を目指した道南農業試験場との連携学習や地元企業と連携した規格外果実や余剰生産物を活用した商品開発にも取り組んでいます。また、北斗市の農業や自然を撮影し、動画を作成することにより、里地里山の魅力発信や自然保護を訴えています。



### 株式会社神戸酒心館

兵庫県

#### 世界初、カーボンゼロの日本酒。

プレゼン動画



世界各国の政府や企業が「カーボンニュートラル化」を宣言するなど、地球環境問題への取組が加速しているなか、製造業にとってはCO<sub>2</sub>排出の“実質ゼロ化”は容易なことではないが、日本酒「福寿」を醸造する株式会社神戸酒心館は、世界で初めて日本酒を造る工程においてカーボンゼロを実現し、フードサプライチェーンにおける脱炭素(カーボンニュートラル)に貢献する日本酒「福寿 純米酒 エコゼロ」を発売する。





## 優秀賞



## 株式会社新見ソーラーカンパニー

岡山県

太陽光パネルの水平リサイクルによる  
脱炭素エネルギーの地産地消

プレゼン動画



2019年、世界で初めて、廃棄パネルからCO<sub>2</sub>を排出せずに高純度のガラス・銅・太陽電池セルを分離抽出できる「佐久本式ソーラーパネル熱分解装置」を開発する。(2023年4月、大量高速処理能力を持つ実用機を稼働予定)2022年8月、一般財団法人 PVリボン協会を設立した。3年後、廃棄パネルを分解した原材料から再生パネルを製造、10年後には脱炭素エネルギーで地域電力を地産地消する循環型エネルギーシステムを開始予定。



## 株式会社明電舎

東京都

明電グループバリューチェーン全体で  
カーボンニュートラルに貢献

プレゼン動画



当社サステナビリティ経営方針に併せ、明電興産本社を省エネ設計・環境配慮資材仕様でBELS5つ星評価の環境適応ZEB-Ready社屋とした。また、働き方改革の一環としてABWを採用し、省力化も実現した。屋上には自家消費型太陽光と開発機マルチPCSを導入し、BCPも向上した。グループ会社の㈱エムウィンズの風力発電をトラッキング付き非化石電源として調達し、事業活動に伴うGHG排出をゼロとし、カーボンニュートラルに貢献している。



## 株式会社ト一屋

山形県

## 庄内エコ米プロジェクト

プレゼン動画



スーパー「ト一屋」で商品化の際に発生する生ゴミを、外部に委託し有機肥料化。その肥料を利用した「庄内エコ米」を自社で販売。リサイクルループを構築した。庄内エコ米(はえぬき)を使用した純米大吟醸1018を、(資)高橋酒造店に製造依頼し、自社他で販売している。2023年4月には、みずほ通り店に太陽光パネルを532枚設置し、年18.2万kwh・同店電力使用量を2020年度比で削減率約20%を目指す。



## 優秀賞

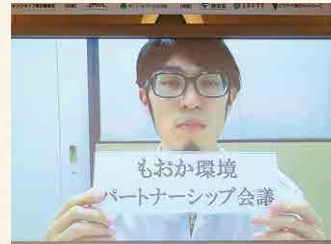


### もおか環境パートナーシップ会議

栃木県

#### 環境保全・環境教育・環境調査の 多岐にわたる脱炭素対策

プレゼン動画



当会は4つの部会に分かれて、地域の脱炭素に向けて様々な角度から活動を実施している。

- ・大久保地区事業部会: 森林保全・植樹活動によるCO<sub>2</sub>吸収量増加に向けた取組
- ・環境学習推進事業部会: 子供への気候変動対策の認識向上に向けた取組
- ・エコレポーター事業部会: 3R活動の重要性の周知や不法投棄撲滅に向けた取組
- ・広報部会: 多くの市民に脱炭素の必要性を理解してもらうための取組

## 奨励賞

脱炭素チャレンジカップ2023では、エントリー団体の中から、ファイナリストに次ぐ優秀な成績を収めた団体に対し、奨励賞を贈呈しています。今年度は、以下の15団体に奨励賞として賞状を贈りました。

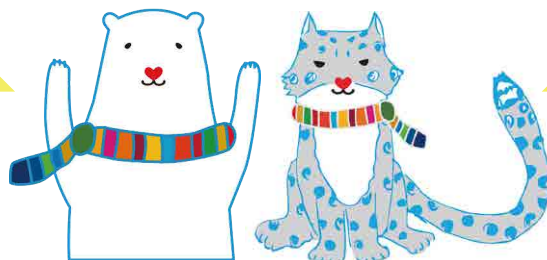
部門	都道府県	団体名称	取組名
学生部門	北海道	北海道岩見沢農業高等学校 農業土木工学科 開発土木専攻班	目指せ脱炭素！ICT施工と従来施工の環境負荷を比較検証
	大分県	大分県立大分工業高等学校	脱炭素を図りながら、通学路の夜道を照らす取り組み
	島根県	出雲西高等学校インターアクトクラブ	出雲発！森林保全プロジェクト
ジュニア・キッズ部門	神奈川県	横浜市長永田台小学校	未来につなげ スマイルファーム
企業・自治体部門	長野県	株式会社アトリエデフ 環境事業チーム「環と環」	厄介者が“宝”に変身!?「たのしく竹林プロジェクト」
	愛知県	ヤマダインフラテクノス株式会社	ゴミを減らして世界を変える 脱炭素は廃棄物の発生抑制から！
	東京都	NGP日本自動車リサイクル事業協同組合	自動車リユース部品でカーボンニュートラル・SDGsに貢献
	鳥取県	三光株式会社	未利用エネルギーを使った海藻の陸上養殖で脱炭素にトライ！
	茨城県	ダイキンHVACソリューション東京株式会社	エアコン百科！HVACによるZEBの取組
	大阪府	ブランシェス株式会社	廃棄衣料の削減
	栃木県	有限会社ナベ企画	間伐材の屋外利用技術を確立し、新たな脱炭素ビジネスを構築
	東京都	国土防災技術株式会社	森林資源の利用で量産化した高純度フルボ酸による脱炭素推進活動
市民部門	岡山県	株式会社あかりカンパニー	採光ブラインドアカリナで窓から“社会を変える、未来が変わる”
	奈良県	NPO法人市民省エネ・節電所ネットワーク	市民と省エネ・節電し、CO <sub>2</sub> 排出ゼロを目指すシステムの確立
	香川県	特定非営利活動法人 こにふあくらぶ	人工林(主として桧林)の整備活動及び間伐材の再利用

＼ 受賞おめでとう！ ／

脱炭素  
チャレンジカップ  
マスコット  
キャラクター

クリーマくん

ホッキョクグマをモチーフに、ドイツ語・イタリア語で気候・天候を意味する「クリーマ」と命名。



ゆきまるくん

「幻の動物」とも呼ばれ、絶滅の危機に瀕するユキヒョウがモデル。